

公開講座「芸術におけるオリジナリティとフェイク」

アメリカ合衆国バトラー大学における大学間連携事業についての報告

(第5回愛知県公立大学法人理事長特別研究)

愛知県立芸術大学・名古屋大学国際言語文化研究科共催



■ 日時：2012年2月28日（火）18:45～20:45

■ 会場：愛知芸術文化センター12階・アートスペースE F（名古屋市営地下鉄栄駅より徒歩2分）

■ 講座内容：

「私の音楽をふりかえって」小林聡（愛知県立芸術大学・作曲）

～1980年代の前衛音楽と自作品のかかわりについて語る。

「音楽における引用について」藤井たぎる（名古屋大学・音楽思想）

～引用が盗用や剽窃でないとしたら、それにいったいどんな「効用」があるのだろうか。ベリオの引用の織物というべき『シンフォニア』などを例に考える。

「ゴッホの贋作について」小林英樹（愛知県立芸術大学・油画）

～日本人がよく知っているゴッホの中にも贋作が紛れ込んでいる。

「1900年パリ万博の貞奴とロイ・フラー」井上さつき（愛知県立芸術大学・音楽学）

～前衛舞踏家ロイ・フラーの劇場で行われた貞奴のパフォーマンスはパリ中の人気をさらった。その秘密は何だったのか。

入場無料

当日、同センター10階で愛知県立芸術大学美術学部 第43回「卒業、修了制作展」開催中